

洗足ウインド・シンフォニー演奏会

2020年11月27日(金) 19:00 開演 (18:30 開場)

洗足学園 前田ホール

Program

- W.シューマン／チェスター序曲
William Schuman (1910-1992) / Chester Overture For Band
テオドール・プレッサー (Theodore Presser) / 株式会社音楽之友社
- J.B.チャンス／朝鮮民謡の主題による変奏曲
John Barnes Chance (1932-1972) / Variations on a Korean Folk Song
ブージー&ホークス (Boosey & Hawkes)
- J.マッキー／フロズン・カテドラル
John Mackey (1973-) / The Frozen Cathedral レンタル：ブレーション株式会社
- ～ intermission ～
- 長生 淳／パガニーニ・ロスト イン ウィンド
Jun Nagao (1964-) / Paganini Lost in Wind
レンタル：株式会社 CAFUA レコード
- O.レスピーギ(佐藤 正人編曲)／交響詩「ローマの祭り」
Ottorino Respighi(arr.Masato Sato) (1879-1936/1959-) / Feste Romane
1.チルチェンセス 2.五十年祭 3.十月祭 4.主顕祭
1. Circenses 2. Il Giubileo 3. L'Ottobrata 4. La Befana
レンタル：フォスターミュージック株式会社

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

曲目解説

チェスター序曲 / W.シューマン

この曲は、ルイジアナ大学のバンドの学生たちの会である「パイ・カップ・オミクロン」の委嘱により、1956年に作曲され、翌年出版されました。

曲は木管楽器による美しいコラールからはじまります。ト長調のこの親しみやすい旋律は、ウィリアム・ピリングス (1746~1800) が 1778 年に出版した「The Singing Master's Assistant」という本のなかにある「チェスター」という歌からとられています。1776 年独立戦争がはじまっており、この「チェスター」は当時革命歌として広く歌われました。内容は「暴君として彼らの鉄のむちを振らしめよ。我らは恐れぬ。ただ神を信ずるのみ、ニューイングランドの神は永遠に我らをすべて救う」というもので、作詩をしたピリングスはアメリカで生まれたはじめての作曲家で、アメリカ独立期の音楽史上重要な人物。この主題が木管による美しいアンサンブルで示されたあと、いきなり金管セクションにより長3度下のホ長調で繰り返されます。主題の提示がすむと、曲は一変して 2/4 拍子となり、金管と打楽器が打ちこむ力強いリズムののって、木管が華麗な変奏曲を展開します。この変奏は、次々と転調し、リズムを変え、金管楽器に引き継がれ、打楽器を加えて力を増し、終盤へと盛り上がる。

(Euphonium 3年 武田 美智)

朝鮮民謡の主題による変奏曲 / J.B.チャンス

作曲されてから今年で 55 年。朝鮮を代表する民謡「アリラン」を主題にしたテーマを 5 つのバリエーションで演奏する「朝鮮民謡による変奏曲」だ。

作曲者である J・B・チャンスが朝鮮戦争で陸軍隊員として朝鮮半島に赴任した際、現地で耳にした「アリラン」のメロディーに魅了されて作られた。

主題 - Con moto 変イ長調。主題は 16 小節から成り、4 小節ずつ大きく 4 つの節に分かれる。1 回目の主題の呈示はクラリネットから始まり、2 回目の主題の呈示は変ニ長調に変わる。

第 1 変奏 - Vivace 変ト長調。主題が 16 分音符の速いパッセージで変奏される。

第 2 変奏 - Larghetto 変ホ短調。ゆったりとしたオーボエのソロにより主題が反行で変奏される。最後は変ハ長調に変わり、元の形の主題がトランペットソロにより示される。

第 3 変奏 - Allegro con brio 変ロ長調。6/8 拍子の行進曲。トランペットが 8 分音符で主題を変奏する。

第 4 変奏 - Sostenuto 口長調。非常にゆったりとしたコラールによる変奏で、低音楽器は高音楽器の反行になっており、2 つの外声が対称の動きをする。

第 5 変奏 - Con Islancio 変ロ長調。この変奏では、2 小節を大きな 3 拍子のように捉えるヘミオラが特徴である。

(Saxophone 2年 米田 諒士)

フローズン・カテドラル / J.マッキー

この作品はノースカロライナ大学グリーンズボロ校、ミシガン州立大学らの委託にてジョン・マッキー氏により作曲され、2013 年 3 月 22 日、ノースカロライナ大学グリーンズボロ・ウィンドアンサンブルによって初演された。

この作品のタイトルにある「大聖堂」とはアラスカ州の名山デナリ山のことを指している。人々がデナリ山を尊び、まるで巡礼者のように訪れることが由来である。

冒頭や後半部分に現れる、鉄琴を始めとした金属製の打楽器によるキラキラした美しい音色は、まるで氷の結晶が陽光を浴びて輝いているかのようだ。

木管楽器にアルトフルート、イングリッシュホルンが加えられており、深淵な中音域の響きが魅力的である。

(Trumpet 4年 高橋 里奈)

パガニーニ・ロスト イン ウィンド / 長生 淳

作曲者、長生 淳は 1964 年茨城県に生まれる。作品は吹奏楽、管弦楽、室内楽、合唱、テレビドラマ、ゲーム音楽と多岐にわたり、いずれも高い評価を得ている。

本作品は、須川展也氏の委嘱により 2008 年に、2 本のアルト・サクソフォンとピアノのために書かれた曲である。吹奏楽版は東京佼成ウインドオーケストラのために、各パート 1 人ずつで演奏出来るようにと 2011 年に編曲された。

曲名にもある「パガニーニ」はヴァイオリンの名手であるニコロ・パガニーニであり、彼の 24 のカプリスの終曲の主題が用いられている。しかし、一般的な変奏曲とは異なり、非常に多くの声部で成り立つこの曲の中で、見つけにくい形で象徴的に用いられている。

作曲者によると、パガニーニの主題を象徴的に用いたのは狙いというよりは結果で、書いているときに念頭にあった須川氏の音楽における求道的な姿勢、つまり彼が追い求めている「なにか」のように主題を扱ったという。

それぞれの楽器が絡み合うように奏でる旋律や和声の中には、パガニーニが見え隠れしている。

(Clarinet 2年 成瀬 未涼)

交響詩「ローマの祭り」 / O.レスピーギ(佐藤 正人編曲)

作曲者、レスピーギは 1879 年にイタリアで生まれる。本作品は 1928 年に完成させた交響詩であり、「ローマの噴水」「ローマの松」に続き作曲され、ローマの三部作の最後を飾る作品である。

第一部「チルチェンセス」 古代ローマの暴君ネロが開いた祭り。キリスト教徒らが猛獣に喰い殺される残酷なショー。

咆吼する金管群は猛獣を、中間部で奏でられるコラールはキリスト教徒の祈りを表している。

第二部「五十年祭」 古い讚美歌をモチーフにした、中世キリスト教の神聖な祭り。

始まりは、巡礼者の重々しい足取りを表す。

後半は明るく転調し、ローマの姿を目にして歓喜する巡礼者と、それに応えて教会の鐘が鳴り響く様子が描かれている。

第三部「十月祭」 モチーフはローマ城で行われるルネサンス時代の農民の収穫祭。

狩りの響き、鐘の音、愛の歌に包まれ、やがて甘いセレナーデがマンドリンにより演奏される。

第四部「主顕祭」 現代のかなり派手な祭り。踊り狂う人々、手回しオルガンに売り子の声が続き、トロンボーンのグリッサンドは酔っばららしい耳障りな歌を表現する。終盤は夜のローマに花火が上がるかのような盛り上がりを見せ、狂喜乱舞のうちに全曲は終わる。

(Clarinet 2年 成瀬 未涼)

洗足ウインド・シンフォニー Member

指揮	池上 政人 (本学教授・企画運営責任者)				
Concert mistress	杉田 愛実				
Flute	佐々木 美緒	花元 百歌	村松 紀親	川野 真奈	小林 千夏
	清水 涼花	福井 麻菜	北山 莉来	園田 凧琉	町田 花音
Oboe	伊織 鈴奈	鈴木 文音	佐藤 千尋 [♪]		
Clarinet	菅野 侑季	杉田 愛実	元村 理乃	加藤 明日香	小泉 和世
	齋藤 要助	東海林 梨紗	橋本 治樹	磯崎 優香	木下 舞香
	成瀬 未涼	二階堂 希美	石井 綾菜 [#]	岡 希美 [#]	刀田 大生 [#]
Bassoon	福原 佑紀	前澤 美里	平川 眞鈴 [♪]		
Saxophone	秋山 圭輔	金 樹冶	近藤 沙耶	水島 梨佐子	山本 ひな
	藤堂 紗也	中崎 美羽	本間 美桜	伊東 玲美	兼田 柊子
	米田 諒士	矢澤 亘			
Trumpet	井上 優希	門脇 克	高橋 里奈	野澤 朋子	澁江 ワタル
	山下 莉奈	高木 美雨	冨永 倫	濱田 ほむら	檜山 沙南
	大津 泰 [♪]	五月女 啓太 [♪]	鈴木 ころろ [♪]		
Horn	江口 千夏	霜村 萌	末永 廉	山口 亜希菜	石塚 麻純 [#]
	中津 里菜 [#]	渡辺 悠紀 [#]			
Trombone	鵜飼 杏	中冢 哲夫	盛喜 麻衣	岩井 心	小森 豊生
	篠塚 裕太	森 秀人 [#]			
Euphonium	高橋 伽苗	武田 美智	石倉 雄太		
Tuba	河原 唯	水岡 頼玖	石田 健悟	重水 大輝	齊藤 徹也
String Bass	前山 みなも [#]	安田 廉 [#]	山内 智世歌 [#]		
Harp	大隅 レオナ [♪]				
Percussion	小松 幹	佐々木 裕依	半田 柊成	藤江 心	東 廉悟
	近藤 花音	濱出 美咲	馬島 啓	松井 菜々子	村山 みなみ
	天谷 芽生	江原 和紀	丹 健汰郎	栃下 紗奈	中田 実紅
	村上 愛佳	横木 秀真			
Piano	木元 るり子 [♪]	小嶋 みのり [♪]	太細 直弥 [♪]		
Organ	中澤 未帆 [#]				
Mandolin	児嶋 絢子 (本学教員)				

= 演奏補助要員 ♪ = 賛助出演